

このPDFドキュメントの全文を日本語に翻訳し、構造化して出力します。

SAP S/4HANAへの会計コンポーネントのコンバージョン

内部 - SAPのお客様およびパートナー向け

2024-06-21

THE BEST RUN SAP

目次

章	タイトル	ページ
1	新機能	3
2	SAP S/4HANAへの会計コンポーネントのコンバージョン	5
3	開始する前に	6
4	重要なSAPノート	8
5	サポートされるコンバージョンパスと手順	12
6	準備フェーズ：コンバージョンに向けてシステムを準備する	13
6.1	データのチェックと照合	15
6.2	月末決算アクティビティ	16
6.3	ポスティングデータの文書化	18
7	実現フェーズ：移行とフォローオンアクティビティ	20

1. 新機能

有効日	特徴の説明
SAP S/4HANA	移行プロセスを簡素化するため、固定資産会計（Asset Accounting）の事前チェックが、簡素化アイテム一貫性チェック S12: FIN_AA として

有効日	特徴の説明
1809	/SDF/RC_START_CHECK レポート内に移動されました。▲ 注意 SAP S/4HANA 1809より前のリリースに移行する場合、これらの事前チェックを手動で実行する必要があります。詳細は「準備フェーズ：コンバージョンに向けてシステムを準備する [ページ 13]」を参照してください。
SAP S/4HANA 1909	移行プロセスを簡素化するため、以下の手動ステップが中央移行コックピットに含まれるようになりました：
	<ul style="list-style-type: none"> 以前に「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > 移行後のアクティビティ」で実行していた「FI伝票の期日入力」および「FI伝票への期日入力ステータス表示」アクティビティは、「開始およびデータ移行の監視」アクティビティの「トランザクションデータの充実 (ENR)」ステップで自動的に実行されます。
	<ul style="list-style-type: none"> 以前に「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > データ移行」で実行していた「ハウスバンク口座の移行」アクティビティは、「開始およびデータ移行の監視」アクティビティの「ハウスバンク口座 (T012K) から銀行口座 (CM1) への移行」ステップで自動的に実行されます。
	<ul style="list-style-type: none"> 以前に「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > データ移行」で実行していた「G/L配賦の移行」アクティビティは、「開始およびデータ移行の監視」アクティビティの「G/L配賦の移行 (GL_AL_MIG)」ステップで自動的に実行されます。
SAP S/4HANA 2020	<ul style="list-style-type: none"> 本稼働のS/4HANAシステムでのコンバージョン後の複数評価アプローチの実装はサポートされていません（「準備フェーズ：コンバージョンに向けてシステムを準備する [ページ 13]」を参照）。 一貫性チェックレポートに関する情報は、「データのチェックと照合 [ページ 15]」の章で更新されました。
SAP S/4HANA 2021	データ移行前後のビジネスデータを比較するためにデータ移行妥当性確認 (Data Transition Validation) を使用します（「ポスティングデータの文書化 [ページ 18]」を参照）。

2. SAP S/4HANAへの会計コンポーネントのコンバージョン

このドキュメントは、会計コンポーネントをSAP S/4HANAにコンバートするために実行する必要があるコンバージョンタスクについて説明します。これらのタスクには、コンバージョンを開始する前の準備ステップと、システムをSAP S/4HANAにコンバートした後に実行されるフォローオンアクティビティが含まれます。これらのタスクは、システムをSAP S/4HANAに適応させるために必要となる可能性のあるすべての活動のサブセットです。

3. 開始する前に

プロセス概要

SAP S/4HANAへのコンバージョンは、定義されたプロセスに従います。次の図は、このプロセスに関わるツール、フェーズ、およびアクティビティの概要を示しています。

SAP S/4HANAシステムコンバージョン：シーケンス

図：準備フェーズと実現フェーズの概要図。準備フェーズには、計画とシステム要件、メンテナンスプランナー、SI-Check、カスタムコード移行などが含まれ、実現フェーズには、SUM、DB移行、データコンバージョンなどが含まれる。

注記: *カスタムコードの準備分析とポスト-SUM適応を含む。

コンバージョンプロセスの詳細については、SAP S/4HANAのコンバージョンガイドを <http://help.sap.com/s4hana> で参照してください。

ハードウェアサイジングに関する質問については、SAP Community Network (SCN) の <http://scn.sap.com/docs/DOC-59920> にまとめられた情報を参照してください。

プロジェクトセットアップに関する考慮事項

システムをコンバートする前に、分析と作業見積もりを完了してください。

SAP S/4HANAへのコンバージョンには、データ移行の準備のために、FI、CO、および固定資産会計に関する深い知識を持つアプリケーションコンサルタントの関与が必要です。

▲ 注意

既存のデータ不整合は、インストール後ではなく、インストール前に解決されなければなりません。

サイジングやインストールなどのタスクはプロジェクトリードおよび管理者が計画および実行できますが、コンバージョン全体を通して実行する必要がある以下のタスクのために、アプリケーションコンサルタントも利用できるようにしてください：

- カスタムコードおよびモディフィケーションのチェック
- SAPノートの実装

データモデルの変更の影響

SAP S/4HANAでFinanceを使用するには、総勘定元帳 (General Ledger)、原価管理 (Controlling)、およびマテリアル台帳から既存のユーザーデータを移行する必要があります。データ移行が必要なのは、SAP S/4HANAのFinanceがすべての会計領域で統一されたデータモデルに基づいているためです。包括的な **ACDOCA** データテーブルには、すべての明細伝票が含まれます。移行後、上記のアプリケーションのすべての転記はACDOCAテーブルに書き込まれます。

以下のテーブルは、同じ技術名を持つビューに置き換えられます。

- 総勘定元帳の明細、合計テーブル、およびアプリケーションインデックステーブル (GLTO、BSIS、BSAS、FAGLFLEXA、FAGLFLEXT、FAGLBESIS、FAGLBSAS)
- 売掛金 (Accounts Receivable) および買掛金 (Accounts Payable) の合計テーブルおよびアプリケーションインデックステーブル (KNC1、KNC3、LFC1、LFC3、BSID、BSIK、BSAD、BSAK)
- 原価計算 (Controlling) の明細および合計テーブル (特定の金額タイプに対するCOEP、COSP、およびCOSS)
- 勘定設定を伴うマテリアル台帳テーブル (MLIT、MLPP、MLPPF、MLCR、MLCD、CKMI1、BSIM)
- 固定資産会計テーブル (ANEK、ANEP、ANEA、ANLP、ANLC)

これらのテーブルを同じ名前のビューに置き換えることにより、テーブルへのすべての読み取りアクセスが維持されることが保証されます。

4. 重要なSAPノート

関連する簡素化アイテム

エリア	説明	アプリケーションコンポーネント	SAPノート番号
Finance	SAP S/4HANA FinanceからSAP S/4HANAへのコンバージョン - Financeの移行ステップ	FIN-MIG	2450377
買掛金/売掛金	S4TWL - SAP運転資本分析/DSO およびDPO	FI-AP FI-AR	2270383
買掛金/売掛金	S4TWL - FSCMビラーダイレクトとの統合 (FI-AR)	FIN-FSCM-BD-AR	2270384
買掛金/売掛金	S4TWL - FSCMビラーダイレクトとの統合 (FI-AP)	FIN-FSCM-BD	2270386
固定資産会計	S4TWL - 固定資産会計：データ構造の変更	FI-AA	2270387
固定資産会計	S4TWL - 固定資産会計：並行評価と仕訳エントリ	FI-AA	2270388
固定資産会計	S4TWL - FI-AAおよびFI-GLからの固定資産会計ビジネス機能	FI-AA	2257555

エリア	説明	アプリケーションコンポーネント	SAPノート番号
固定資産会計	S4TWL - リース会計エンジン (LAE)との統合	FI-LA, CRM-LAM	2270391 2211665 2328754
固定資産会計	S4TWL - 共同事業会計 (JVA)	FI-AA	2270392
キャッシュマネジメント	S4TWL - キャッシュマネジメント - 一般	FIN-FSCM-CM	2270400
収益性管理	EC-CSにおける長い品目コードの使用	EC-CS	2209784
原価計算	S4TWL - 原価計算における技術的変更	CO-PA CO-PC	2270404
原価計算	S4TWL - 損益計画および利益センター計画	CO-OM CO-OM FI-GL	2270407
原価計算	S4TWL - 活動基準原価計算	CO-OM-ABC	2270408
原価計算	S4TWL - 一般原価対象および原価対象階層	CO-PC-OBJ	2270411
原価計算	S4TWL - 移転価格/並行デルタバージョン	CO-PA	2270414
原価計算	S4TWL - ALEシナリオ	CO-PA	2270416
原価計算	S4TWL - 原価要素	CO-PA	2270419
原価計算	S4TWL - 収益性分析	CO-PA	2349278
原価計算	S4TWL - 原価計算におけるレポート/分析	CO-OM-IS CO-PA-IS CO-PC-IS	2349297
原価計算	S4TWL - 原価計算における集計階層	CO-PC-IS	2349282
原価計算	S4TWL - 実質原価計算を伴うマテリアル台帳の技術的変更	CO-PC-ACT	2354768
原価計算	S4TWL 参照およびシミュレーション原価計算	CO-PC-PCP-REF	2349294
General	S4TWL - FIにおけるデータモデルの変更	FI-CF	2270333
General	S4TWL - FIにおける置換されたトランザクションコードとプログラム	FI-CF	2270335
総勘定元帳	S4TWL - S/4 HANA OP を使用したクロージングコックピット	FI-GL-G	2332547

エリア	説明	アプリケーションコンポーネント	SAPノート番号
総勘定元帳	S4TWL - ユニバーサルジャーナルにおける通貨	FI-GL	2344012
総勘定元帳	S4TWL - 総勘定元帳	FI-GL	2270339
総勘定元帳	S4TWL - HANA CALC VIEWベースのSAP HANA ODPレポート	FI-GL	2270360
総勘定元帳	S4TWL - SAP入庫および品目受領照合	FI-GL	2270359
その他	S4TWL - クレジット管理	FI-AR-CR FIN-FSCM-CR	2270544
その他	S4TWL - マテリアル台帳の技術的変更	CO-PC-ACT	2270546
その他	S4TWL - 不動産クラシック	RE-FX	2270550
その他	S4TWL - S/4HANA 1610マテリアル台帳と実質原価計算へのコンバージョン	FIN-MIG-ML	2352383
その他	S4TWL - SAP S/4HANA Finance のデータアーカイブ	FI-GL-GL FIN-FSCM-CLM FI-AP-IS FI-AR-IS	2170722
その他	S4TWL - SAP Simple Financeの SAP Smart Business	FI-AP-IS FI-AR-IS	2270562
その他	S4TWL - S/4HANAで利用できない差別化カテゴリー依存FSデータセット	FS-BP	2448350
その他	S4TWL - 製品設計原価見積り	FIN-BA	2442292
その他	S4TWL - マテリアル台帳の技術的変更	CO-PC-ACT	2332591
Treasury and Risk Management	S4TWL - 照会機能	FIN-FSCM-TRM-TM	2270450
Treasury and Risk Management	S4TWL - 金利および利回り曲線機能	FIN-FSCM-TRM	2270461
Treasury and Risk Management	S4TWL - 費用の発生/繰延および収益の発生/繰延	FIN-FSCM-TRM	2270462
Treasury and Risk Management	S4TWL - コモディティリスク管理	FIN-FSCM-TRM	2270469

エリア	説明	アプリケーションコンポーネント	SAPノート番号
Treasury and Risk Management	S4TWL - 信用リスクアナライザーとキャッシュマネジメントのリンク	FIN-FSCM-TRM	2270470
Treasury and Risk Management	S4TWL - エクスポート管理 1.0	FIN-FSCM-TRM	2270514
Treasury and Risk Management	S4TWL - 償還可能な債券	FIN-FSCM-TRM	2270521
Treasury and Risk Management	S4TWL - Treasury and Risk Managementにおけるドリルダウンレポート	FIN-FSCM-TRM	2270522
Treasury and Risk Management	S4TWL - マスター契約	FIN-FSCM-TRM	2270523
Treasury and Risk Management	S4TWL - オファー	FIN-FSCM-TRM	2270526
Treasury and Risk Management	S4TWL - 取引管理におけるシミュレーション	FIN-FSCM-TRM	2270527
Treasury and Risk Management	S4TWL - マネーマーケット取引に対する数量台帳の常時有効化	FIN-FSCM-TRM	2270529
Treasury and Risk Management	S4TWL - 複数の種類の財務オブジェクトの無効化	FIN-FSCM-TRM	2270530
Treasury and Risk Management	S4TWL - 為替予約の財務伝票およびキャッシュマネジメントへの配分	FIN-FSCM-TRM	2524941
Treasury and Risk Management	S4TWL - エクスポート管理 1.0	FIN-FSCM-TRM	2340804
グローバリゼーション	S4TWL - グローバリゼーション - Finance	FI-LOC-IS FI-LOC-SRF	2270311
グローバリゼーション	S4TWL - イスラエル向け編入ソリューション	XX-CSC-IL	2437547
グローバリゼーション	S4TWL - ポルトガル向け資金管理	XX-CSC-PT-PSM-FM	2469984
マスタデータ：ビジネスパートナー			
SAP Business Partner	S4TWL - ビジネスパートナーアップロード	LO-MD-BP	2265093

5. サポートされるコンバージョンパスと手順

以下の製品を使用している場合、システムをSAP S/4HANAにコンバートできます。

- SAP ERP 6.0以降
- SAP S/4HANA Finance 1605
- SAP Simple Finance, on-premise edition 1503
- SAP Simple Financeアドオン 1.0

サポートされるオプションは以下の通りです。

図：SAP Business SuiteからSAP S/4HANAへのコンバージョンパス。ERPからの直接コンバージョンや、Simple Finance 1503、S/4HANA Finance 1605を経由するパスが示されている。

SAP ERPのどのエンハンスメントパッケージからでも、SAP S/4HANAに直接進むことができます。

ビジネスダウンタイムを削減するために、ダウンタイム最適化コンバージョンを選択するか（SAPノート [2293733](#)を参照）、Near Zero Downtimeメソッドを適用することができます（SAPノート [693168](#)を参照）。

6. 準備フェーズ：コンバージョンに向けてシステムを準備する

関連する簡素化アイテムの特定

簡素化リストを使用して、ソースシステムリリースと比較してSAP S/4HANAで簡素化されているアイテムを特定します。

データの準備

システムコンバージョンを開始する前に、以下の活動を実行してシステムを準備します。

- 会計コンポーネント間のデータの整合性をチェックし、照合を実行して、データをユニバーサルジャーナルエントリに正しくマージできるようにします。
 - SAP S/4HANAでは、すべての明細伝票はユニバーサルACDOCAデータテーブルに保存されます。
 - 詳細については、「データのチェックと照合 [ページ 15]」を参照してください。
- レポートイングキー数値の保存と転記期間のクローズを含め、月次決算を実行します。

- 詳細については、「月末決算アクティビティ [ページ 16]」を参照してください。
- ポスティングデータを文書化します。
 - 詳細については、「ポスティングデータの文書化 [ページ 18]」を参照してください。
- 移行前に、日常のビジネスプロセスで不要になったデータをアーカイブします。
- 拡張機能Enterprise Financials Extension (EA-FIN) の新しい減価償却計算を使用していなかった場合は、別のプロジェクトの一部として実装する必要があります。

総勘定元帳の準備

クラシック総勘定元帳を使用していた場合、コンバージョン前に既存の**外貨評価**をリセットする必要があります。これを行うには、以下の手順に従います。

1. 評価方法を定義し、その中で**リセット**ラジオボタンを選択します。
2. ステップ1で定義した評価方法を適用し、トランザクション **F.05**（レポート SAPF100）を使用して外貨評価を実行します。

並行評価

SAP S/4HANAで並行評価（通貨タイプ 31/11 または 32/12）を使用したいが、ERPシステムで以前に使用していなかった場合は、S/4HANAコンバージョン前にERPシステムで並行評価を導入する必要があります。詳細はSAPノート [120380](#)を参照してください。

本稼働のS/4HANAシステムでのコンバージョン後の**複数評価アプローチの実装はサポートされていません**。詳細はSAPノート [2882025](#)を参照してください。また、SAP S/4HANAへのコンバージョン中の複数評価アプローチの実装もサポートされていません。これは、移行ステップの一部として「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン」の下で複数評価に関するカスタマイズ設定を行う場合に、S/4HANAシステムでデータ不整合を引き起こす可能性があるためです。

固定資産会計の準備

移行前に、ソースシステムで**新しい減価償却計算**を有効化します。これを行うには、**EA-FIN**ビジネスファンクションを有効化する必要があります。SAP S/4HANAへのコンバージョンを開始する前に、新しい減価償却計算が本稼働システムでアクティブであることを確認してください。

以下の活動を実行します。

- 固定資産会計データのアーカイブ
 - → **推奨**
 - 移行中に問題やエラーが発生するのを減らすため、可能な限り多くの固定資産会計データをアーカイブし、移行されるドキュメントの数を減らします。
- 固定資産会計で開いている会計年度が**1つのみ**であることを確認します。

事前チェックの実行

事前チェックは、システムがコンバージョンプロセスと互換性があることを確認するために必要なステップを特定するのに役立ちます。

	SAP S/4HANA 1511	SAP S/4HANA 1610	SAP S/4HANA 1709	SAI S/4I 180
総勘定元帳と原価計算	<p>原価計算と総勘定元帳の事前チェックにより、台帳、会社コード、原価計算エリアの設定が整合しており、SAP S/4HANAに移行できるかどうかが分析されます。これらの原価計算および総勘定元帳の事前チェックは、レポート R_S4_PRE_TRANSITION_CHECKS を実行したときに自動的に実行されます。</p>	<p>ソフトウェア更新マネージャー (SUM) によって呼び出されるSI-Checkは、原価計算および総勘定元帳コンポーネントに関連する簡素化アイテムを特定します。これらは、台帳、会社コード、原価計算エリアの設定が整合しており、SAP S/4HANA 1709以降に移行できるかどうかを分析します。</p>		
固定資産会計	<p>固定資産会計 (FI-AA) の事前チェックを実行するには、集約SAPノート 2333236 に記載されているSAPノートを実装してください。固定資産会計 (FI-AA) の事前チェックプログラムは、中央事前チェックレポート R_S4_PRE_TRANSITION_CHECKS またはSI-Checkには含まれていません。固定資産会計の適切な事前チェックを実行するには、レポート RASFIN_MIGR_PRECHECK を実行してください。レポート R_S4_PRE_TRANSITION_CHECKS をクライアント 000 で実行して全クライアントでチェックを実行するのに対し、レポート RASFIN_MIGR_PRECHECK は各本稼働クライアントで実行してください。</p>	<p>SI-Checkには固定資産会計の事前チェックが含まれます。これらのチェックは自動的に実行されます。手動の事前チェックについては、プログラム /SDF/RC_START_CHECK を使用し、要素「Asset Accounting」(ID SI2: FIN_AA) の結果を確認できます。</p>		

6.1 データのチェックと照合

コンバージョンする前に、ソースシステムでデータ整合性チェックを実行することをSAPは推奨します。SAPは、財務データの技術的な正確性を確認するために、以下のプログラムを実行することを推奨します。

レポート	目的
FIN_CORR_RECONCILE	総勘定元帳と売掛金/買掛金サブ元帳の照合を実行し、データベースの不整合を見つけます (SAPノート 2755360 を参照)。
FIN_CORR_MONITOR	<ul style="list-style-type: none"> データベースの不整合を照合および特定します (FIN_CORR_RECONCILEと同じ)。 最後の照合実行で見つかったデータベースの不整合を分析し、考えられるエラーを修正します。
TFC_COMPARE_VZ	総勘定元帳と売掛金/買掛金サブ元帳を照合します。
SAPF190	新しい総勘定元帳と売掛金/買掛金サブ元帳を照合します。
FIN_AA_CORR_RECON	固定資産会計における重大なデータベース不整合を照合および特定します (SAPノート 2896400 を参照)。
RAABST02	元帳の評価および並行評価について、総勘定元帳と固定資産会計を照合します (SAPノート 2390881 を参照)。
RGUCOMP4	台帳と新しい総勘定元帳を比較します。
RM07MBST	マテリアルマネジメント (MM) と総勘定元帳を照合します。
RM07MMFI	

SAPは、コンバージョンプロジェクトのかなり前に上記のレポートを使用することを推奨します。これらのレポートは、コンバージョン前のすべての不整合シナリオを検出できるわけではないことに注意してください。そのため、テストコンバージョンの一部として、実際のコンバージョン中に実行されるチェックを使用し、データをクリーンアップしてください。これを行うには、SAP S/4HANAへのテストコンバージョンを実装した後、SAPカスタマイズ導入ガイドの「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > データ移行 > 開始およびデータ移行の監視」の下にある **R20 アクティビティ 「トランザクションデータの分析」** を実行します。

このアクティビティを使用してエラーを分析します。結果を会社コードと会計年度ごとにグループ化できます。特定のエラータイプについては、レポート **FIN_CORR_MIG_ERROR_SFIN** を使用して、ソースシステムでシステムが自動的に修正することを決定することもできます。自動修正の詳細については、SAPノート [2225322](#) を参照してください。

KBAノート [2714344](#) は、移行中に発生するエラーの考えられる原因と解決策を一覧表示します。

Note

ソースシステムでは、プログラムが見つけた不整合は、コンバージョン前に適切な手動転記を

行うことによって修正する必要があります。

6.2 月末決算アクティビティ

コンバージョンを準備するために、以下の活動を実行し、結果を文書化します。

Note

前会計年度の認証済み財務諸表は、コンバージョンの前提条件です。

固定資産会計 (FI-AA) に関しては、前会計年度を再度開くことは許可されていません。

1. すべてのアプリケーションと台帳の残高を、以下のトランザクションを使用して**現会計年度に繰り越している**ことを確認します。
 - 新しい総勘定元帳の場合: **FAGLGVTR**
 - クラシック総勘定元帳の場合: **F.16**
 - 固定資産会計の場合: **AJRW**
 - 売掛金および買掛金の場合: **F.07**
2. 技術的なダウンタイムの数日前、例えば月の最初の週に、前会計期間の通常の月次決算アクティビティを実行します。
固定資産会計を使用している場合は、以下の最小限のタスクセットを実行します。
 1. エラーなしで減価償却実行をレポート **RAPOST2000** またはトランザクション **AFAB** を使用して実行します。
 2. エラーなしで定期的な固定資産転記レポート **RAPERB2000** を実行します。

Note

SAP ERP 6.0を使用し**クラシック固定資産会計**を使用していた場合、レポート **RAABST02** またはトランザクション **ABST2** を使用して、総勘定元帳とクラシック固定資産会計を照合します。照合中に見つかったすべての差異を修正します。

SAP ERP 6.0を使用し**新しい固定資産会計**（ビジネスファンクション **FIN_AA_PARALLEL_VAL** 付き）を使用していた場合、トランザクション **ABSTL**（レポート **FAA_GL_RECON**）または **ABST2** を使用して、総勘定元帳と新しい固定資産会計を照合します。照合中に見つかったすべての差異を修正します。

3. 固定資産履歴表を実行します。

技術的なダウンタイムの直前に、以下の活動を実行します。

1. すべてのスケジュールされたジョブを実行します。
新しいジョブをスケジュールしないでください。
2. 保留中のすべての伝票が転記または削除されていることを確認します。
保留中の伝票はトランザクション **FB50** を使用して転記します。保留中の伝票はプログラム **RFTMPBLD** を使用して削除します。
登録済みの伝票は特別な処理を必要としません。

- 定期的な固定資産転記のクローズをプログラム **RAPERB2000** またはトランザクション **ASKB** を使用して実行します。

Note

このアクティビティは、固定資産会計を使用している場合にのみ関連します。

- トランザクション **AFAR** を使用して、減価償却の計画値を計算します。これにより、移行時のRCエラーを回避できます。

Note

このアクティビティは、固定資産会計を使用している場合にのみ関連します。

- システム内の更新停止をチェックし、見つかった場合は修正します。
- 既に**勘定ベースの収益性分析**を使用している場合は、デルタメソッドを使用するすべてのアカウントベースのCO-PAデータソースについて、SAP S/4HANAへのデルタアップロードを実行します。

Note

このアクティビティは、クラシック総勘定元帳、新しい総勘定元帳、またはSAP Simple Financeアドオン 1.0を使用している場合に実行します。

- クラシック総勘定元帳の**貸借対照表準備のための評価**機能を使用して外貨を評価していた場合、オープンアイテムの評価差異をゼロに設定する必要があります。これは、プログラム **SAPF100** を使用して、現会計年度のすべての期間の評価をリセットすることを意味します。

Note

新しい総勘定元帳での外貨評価は、クラシック総勘定元帳で利用可能な「貸借対照表準備のための評価」機能の結果を考慮しません。評価をリセットしないと、移行後に値が不正確になる可能性があります。

- 次のステップ「ポスティングデータの文書化」のために一貫したデータが保証されるように、プログラム **SAPL0F00** を使用して財務会計のすべての期間をロックします。
- プログラム **SAPMKCSP** を使用して、原価計算（計画/実績）のすべての期間をロックします。
- コンバート先のリリースに応じて、以下のように進めます。
 - SAP S/4HANA 1511、1610、および1709のリリースの場合は、プログラム **RASFIN_MIGR_PRECHECK** を実行します。
 - SAP S/4HANA 1809以降のリリースの場合は、プログラム **RASFIN_MIGR_PRECHECK** で提供されるすべてのチェックが、SUMによって自動的に開始されるプログラム **/SDF/RC_START_CHECK** に統合されています。

6.3 ポスティングデータの文書化

「月末決算アクティビティ」のステップ1を正しく実行したことを確認し、繰り越し残高が完了し一貫していることを確認します。

移行後にポスティングデータを検証できるように、月次決算中に使用するSAPが提供する以下の標準レポートや、顧客固有のレポートなどを例として、ポスティングデータを文書化します。

- 財務諸表（プログラム **RFBILA00**）
- 原価センタの合計レポート（トランザクション **S_ALR_87013611**）
- オーダー：実績/計画/差異（トランザクション **S_ALR_87012993**）
- G/L勘定残高一覧（プログラム **RFSSLID00**）
- 総勘定元帳明細一覧（プログラム **RFSOP000**）
- コンパクト伝票ジャーナル（プログラム **RFBELJ00**）
- 固定資産履歴表（プログラム **RAGITT_ALV01**）
- 計画減価償却のための減価償却実行（プログラム **RAHAFA_ALV01**）
- ベンダー売上（プログラム **RFKUML00**）
- ベンダーオープン明細一覧（プログラム **RFKEPL00**）
- 得意先売上（プログラム **RFDUML00**）
- 得意先オープン明細一覧（プログラム **RFDEPL00**）
- 得意先定期転記オリジナル伝票（プログラム **RFDAUB00**）

Note

上記のリストは使用できるレポートの例です。どのレポートがデータを照合し、監査のためにコンバージョン結果を文書化し、移行の結果とステータスを定義するのに最適かを確認してください。

→ ヒント

上記のレポートを、会社コードや勘定が異なるなど、異なるバリエントで複数回実行する必要がある場合は、**データ移行妥当性確認 (Data Transition Validation)** の使用を推奨します。データ移行妥当性確認を使用すると、SAP ERPからSAP S/4HANAへのシステムコンバージョン前後、およびSAP S/4HANAアップグレード前後でビジネスデータを比較できます。

データ移行妥当性確認は、標準のSAP S/4HANAライセンスの一部として利用可能です。

ツールは、ビジネス妥当性確認のための事前提供されたコンテンツを使用して、アップグレードまたはコンバージョンシナリオの妥当性確認をサポートします。上記にリストされている照合レポートは、データ移行妥当性確認の事前提供コンテンツの一部です。

7. 実現フェーズ：移行とフォローオンアクティビティ データとカスタマイズの移行

システムを技術的にSAP S/4HANAにコンバートした後、移行に関連するカスタマイズ設定、および総勘定元帳、固定資産会計、原価計算、マテリアル台帳のデータを新しいデータ構造に移行する必要があります。

データおよびカスタマイズ設定の移行に必要なすべてのアクティビティは、SAPカスタマイズ導入ガイドの「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン」の下に見つけることができます。

実装ガイドの第1レベルは、移行中に実行するさまざまなステップに従って構成されています。実装ガイドの第2レベルは、移行を実行するコンポーネントを反映しています。

移行する各コンポーネントについて、各ステップのすべてのカスタマイズアクティビティを実行してください。

アクティビティは指定された順序で実行し、カスタマイズアクティビティをスキップしないようにしてください。

移行中、既存のテーブルに保存されていた財務データは、ユニバーサルジャーナルの新しいデータモデルに自動的に変換されます。移行元のソースリリースに応じて、異なるステップが実行される必要があります。データ移行モニターは、どの移行ステップが必要かを示します。

SAPカスタマイズ導入ガイドの「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > データ移行 > 開始およびデータ移行の監視」の下でモニターにアクセスします。モニターはデータ移行を自動的に実行し、移行アクティビティの正しい順序を保証します。

Example

SAP S/4HANA Finance 1503以降から移行する場合、財務データは既に新しいデータモデルに適合しています。したがって、SAP S/4HANAへの移行中に、モニターはマテリアル台帳に関連する必要なステップのみを実行します。

固定資産会計の移行を実行する場合、必要なすべてのアクティビティが「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン」のカスタマイズ構造の一部として文書化されていることに注意してください。ただし、これらのステップの実行に役立つ追加情報は、「SAP S/4HANA製品アシスタンス：固定資産会計」で見つけることができます。ここでは、移行後の移行シナリオや減価償却表の例が示されています。

マテリアル台帳データを移行する前に、集約SAPノート [2345739](#) にリストされているすべてのSAPノートを実装していることを確認してください。

ソースシステムでクレジット管理 (FI-AR-CR) を使用していた場合、Financial Supply Chain Managementの一部としてクレジット管理 (FIN-FSCM-CR) に移行する必要があります。

ソースシステムでSAP Treasury and Risk Management (FIN-FSCM-TRM) を使用していた場合、移行タスクは必要ありません。

認可

移行を実行できるようにするには、**SAP_SFIN_MIGRATION** 認可ロールが割り当てられていることを確認してください。特に、**FINS_MIG** 認可オブジェクトの活動 16 (実行 - Execute) の認可が必要です。

手順

「SAP S/4HANAコンバージョンガイド」の「分散システムランドスケープ」セクションでは、単純なシステムランドスケープの例が概説されています。この例のランドスケープに基づき、コンバージョンは以下の2ステップの手順に分けることができます。

1. 本稼働システムのコピーに対するカスタマイズとデータ移行のテスト

▲ 注意

テストフェーズ中に検出した不整合データは、テストシステムと本稼働システムの両方でクリーンアップする必要があります。これにより、本稼働移行を正常に実行できます。

2. 本番移行

カスタマイズとデータ移行のテスト

1. SAP Business Suite開発システムのシステムコピーを作成します。
2. 各本稼働クライアントのプロダクションデータ (SAP Business Suite本稼働システムから) をこのシステムコピーにコピーします。

カスタマイズ設定とデータは、各クライアントごとに個別に移行する必要があります。

3. システムコピーをSAP S/4HANAにコンバートします。
4. 数回のイテレーションで、システムコピー内のデータとカスタマイズ移行をテストします。

「開始およびデータ移行の監視」カスタマイズアクティビティでチェックプログラムを実行および監視しながら、データをクリーンアップし、エラーを修正します。

これらのテストイテレーション中、システムは本番データコピーに基づいてすべてのカスタマイズ設定を転送リクエストに記録します。

データ移行のテストイテレーション中に、以前のイテレーションシーケンス中に受け入れた転送エラーを転送するためにレポート **FINS_MASS_DATA_MONITOR_MSG_TRA** を使用できます。

Example

このレポートを使用すると、次のデータ移行イテレーション中に古い会計年度から発生したエラーを自動的に受け入れることができます。

このレポートは、カスタマイズリクエストで受け入れたエラーを記録します。テストを効率化するために、次のテストイテレーションに進む前にこの転送をインポートしてください。

テスト実行を完了した後、本番移行を開始します。

本番移行

Note

開発またはカスタマイズのみに使用しているクライアントも含め、**すべてのクライアント**に対して移行を実行する必要があります。

クライアントを使用していない場合は、移行しないでください。ただし、コンバージョン後、そのクライアントではSAP S/4HANAでFIカスタマイズの転記や保守/変更ができなくなることに注意してください。移行前に使用していないクライアントを削除することを推奨します。

クライアント 000 は移行しないでください。このクライアントには、正しい新しい形式の標準カスタマイズが提供されます。

コンバージョンを技術的にスピードアップするには、カスタマイズでの並列ジョブの数を増やします（「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > 準備およびカスタマイズの移行 > Mass Data Frameworkでのアクティビティのジョブ数の設定」を参照）。HANAとロジスティクスコンバージョンがこのように完了した後、すべてのリソースがFinanceコンバージョンに利用可能になります。

1. 本番SAP Business SuiteシステムをSAP S/4HANAにコンバートします。
2. システムコピーからカスタマイズ設定をインポートします。
各クライアントから個別にカスタマイズ設定をインポートします。
3. SAPカスタマイズ導入ガイドの「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン > データ移行 > 開始およびデータ移行の監視」の下で、トランザクションデータを移行します。
各クライアントから個別にトランザクションデータを移行します。

▲ Caution

データを一度だけ移行するようにしてください。詳細はSAPノート [2294486](#) を参照してください。

4. 移行を完了します。

以下の条件が満たされた後、移行ステータスを完了として設定します。

- 完全な移行に必要な**すべてのカスタマイズアクティビティ**を実行した。
- **データ移行**を完了し、すべてエラーのあるデータを修正した。

ステータスを完了として設定すると、リセットすることはできません。

移行完了後、すべてのユーザーのロックを解除し、転記期間を開き、SAP S/4HANAシステムの使用を開始できます。

Note

「SAP S/4HANAへの会計コンバージョン」のカスタマイズ構造内で、**移行後のアクティビティ**の下にあるすべてのカスタマイズアクティビティは、ビジネスダウンタイムの後でも実行できます。

重要な免責事項と法的情報

ハイパーリンク

一部のリンクはアイコンやマウスオーバーテキストによって分類されています。これらのリンクは追加情報を提供します。

アイコンに関する注意点：

- アイコンが付いているリンク：SAPがホストしていないウェブサイトにアクセスすることになります。そのようなリンクを使用することにより、お客様は（SAPとの契約で特に明記されていない限り）以下の点に同意するものとします。
 - リンク先サイトのコンテンツはSAPのドキュメントではありません。この情報に基づいてSAPに対する製品のクレームを推論してはなりません。
 - SAPはリンク先サイトのコンテンツに同意または不同意を示すものではなく、リンク先サイトの可用性や正確性を保証しません。SAPまたはその関連会社は、SAPの重大な過失または故意の不正行為によって引き起こされた損害を除き、当該コンテンツの使用によって生じた損害について責任を負いません。
- アイコンが付いているリンク：特定のSAP製品またはサービスのドキュメントから離れ、SAPがホストするWebサイトにアクセスすることになります。そのようなリンクを使用することにより、お客様は（SAPとの契約で特に明記されていない限り）以下の点に同意するものとします。
 - この情報に基づいてSAPに対する製品のクレームを推論してはなりません。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームを指している場合があります。SAPは、これらのプラットフォームに保存されているビデオの将来的な利用可能性を保証できません。さらに、これらのプラットフォームでホストされている広告やその他のコンテンツ（例えば、おすすめビデオや同じサイトでホストされている他のビデオへのナビゲーションなど）は、SAPの管理下になく、SAPの責任範囲外です。

ベータ版およびその他の実験的機能

実験的機能は、将来のリリースでSAPが保証する正式に提供される範囲の一部ではありません。これは、実験的機能がいつでも理由なくSAPによって変更される可能性があることを意味します。実験的機能は本番使用を目的としていません。実験的機能をライブ運用環境や十分にバックアップされていないデータで使用、実演、テスト、検証、評価することはできません。実験的機能の目的は、早期にフィードバックを得て、顧客やパートナーが将来の製品に影響を与えられるようにすることです。フィードバック（例：SAP Communityで）を提供することにより、寄稿または派生作品の知的財産権は引き続きSAPの独占的所有物となることに同意するものとします。

サンプルコード

ソフトウェアのコーディングおよび/またはコードスニペットは例です。これらは本番使用を目的としていません。サンプルコードは、構文および表現のルールをより良く説明し視覚化するためだけに意図されています。SAPはサンプルコードの正確性および完全性を保証しません。SAPは、サンプルコードの使用によって引き起こされたエラーまたは損害について責任を負いません。ただし、SAPの重大な過失または故意の不正行為によって損害が発生した場合はこの限りではありません。

バイアスフリーな言語

SAPは、多様性とインクルージョンの文化をサポートしています。可能な限り、すべての文化、民族、性別、能力の人々を参照するために、ドキュメントでは偏りのない言語を使用します。

© 2024 SAP SE または SAPアフィリエイト会社。無断複写・転載を禁じます。

本書の一部は、SAP SEまたはSAPアフィリエイト会社の事前の許可なく、いかなる形式または目的においても複製または送信することはできません。ここに記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。

SAP SEおよびその販売店によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの独自のソフトウェアコンポーネントが含まれています。国別の製品仕様は異なる場合があります。

本資料は、情報提供のみを目的としてSAP SEまたはSAPアフィリエイト会社によって提供されており、いかなる種類の表明または保証もありません。SAPまたはその関連会社は、本資料における誤りまたは脱落について責任を負いません。SAPまたはSAPアフィリエイト会社の製品およびサービスに対する唯一の保証は、それらの製品およびサービスに付随する明示的な保証書に記載されているものです。本書のいかなる内容も、追加の保証を構成するものとして解釈されるべきではありません。

ここに記載されているSAPおよびその他のSAP製品やサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他の国におけるSAP SE（またはSAPアフィリエイト会社）の商標または登録商標です。言及されているその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの会社の商標です。

追加の商標情報および通知については、<https://www.sap.com/about/legal/trademark.html> をご覧ください。

THE BEST RUN SAP

www.sap.com/contactsap

関連ノート